

＜基本方針＞

基本方針1 0歳児からの読書を支える図書館

＜施策の方向性及び主な取組みについて（第2次世田谷区立図書館ビジョン第2期行動計画から一部転記）＞

①子どもが本に出会う機会をつくる

乳幼児から小学生、中学生、そして大人へと読書や学びの習慣が続くよう、子どもの成長段階に応じた切れ目のない読書支援を行います。乳幼児に対しては、赤ちゃんおはなし会や絵本・わらべうた講座などの充実のほか、はじめて出会う絵本事業や出張ブックトーク事業等も実施に向けて検討します。

②子どもサービスの拠点をつくる

・子どもの読書活動を支援する取組みや地域などへの支援を行うため、継続して、絵本、児童資料、ヤングアダルト資料の収集に努めるほか、視覚障害をはじめとする配慮を要する子どもの読書のため、布絵本やマルチメディアデジジー、録音図書、大活字本なども収集の充実を図ります。
・子どもの読書活動や読み聞かせなどに関心のある区民と協力して事業を進めるため、おはなし会ボランティア講座や子ども読書リーダー（子ども司書）講座などを継続して実施します。

③充実した学校図書館づくりを支援する

学校図書館の充実に向け、区立図書館の豊富な図書資料等や選書などのスキルを有効に活用することが求められます。学級文庫のための団体貸出や調べ学習用の資料提供といった支援の充実のほか、区立図書館と学校図書館司書等との定期的な交流会の開催等を検討し、情報交換や選書や授業に対するレファレンスなどを実施する体制の確立に努めます。

＜評価指標及び自己評価＞

指標		R2年度実績	R3年度実績	対R2年度比	《参考》 H30年度実績	令和3年度自己評価
①	子どもが本に出会う機会をつくる					
	定例おはなし会	実施回数	349回	211回	60.5%	1013回
		参加者数	2,612名 (子ども1,608名、大人1,004名)	1,535名 (子ども923名、大人612名)	58.8%	13,056名 (子ども7,973名、大人5,083名)
	子ども向け事業（おはなし会を除く）	実施回数	49回	55回	112.2%	179回
		参加者数	736名 (子ども441名、大人295名)	714名 (子ども427名、大人287名)	97.0%	5,634名 (子ども3,390名、大人2,244名)
②	子どもサービスの拠点をつくる					
	児童向け資料	蔵書数	534,403冊	539,639冊	101.0%	522,498冊
		貸出数	2,194,961冊	2,578,660冊	117.5%	2,388,969冊
	子ども読書リーダー（子ども司書）活動実績	講座参加者数	20名	46名	230.0%	51名
		活動回数	23回	30回	130.4%	108回
		参加者人数	89名	131名	147.2%	292名
③	充実した学校図書館づくりを支援する					
	小・中学校への調べ学習支援貸出実績	件数	381件	312件	81.9%	490件
		冊数	13,556冊	10,415冊	76.8%	20,803冊
	小・中学校教諭研修 図書館受入実績	受入日数	44日	38日	86.4%	42日
		受入人数	30名	19名	63.3%	25名

＜各館の具体的な取組み事例＞

①子どもが本に出会う機会をつくる

○子ども向け事業

- ・（中央図書館）「世界のこぼれ読み聞かせ」外国語による絵本の読み聞かせや文化についてのブックトークを実施した。
- ・（経堂図書館）「創作かみしばい」劇団・せたがや創作紙芝居による上演と、合間に内容についてのクイズを出題した。

②子どもサービスの拠点をつくる

○児童向け資料

- ・（梅丘図書館）「やさしい本」コーナーの資料として点字本等を20冊購入した。布絵本は新型コロナウイルス感染症拡大防止のための除菌および修繕作業を重点的に行った。
- ・（世田谷図書館）外国語絵本等の充実に向けて、英語絵本を1割以上増加させ、企画展示を行うなどして所蔵PRを行った。
- ・（中央図書館）低学年向けノンフィクションブックリスト「もっと、なぜ？なに？するってのいい！」を作成した。（参考資料添付）

○子ども読書リーダー活動

- ・（粕谷図書館）子ども読書リーダーに、子ども向け広報紙に本の紹介文を書いてもらった。

③充実した学校図書館づくりを支援する

○調べ学習支援

- ・（梅丘図書館）教科書に出ている資料を中心に調べ学習資料を購入し、充実させた。
- ・（下馬図書館）教科書や小学校からの調べ学習用団体貸出の依頼が多かったものを選定して購入した。

＜基本方針に関連したアンケート調査結果抜粋＞ ※「令和3年度世田谷区立図書館についてのアンケート調査結果」から抜粋

○おはなし会認知度 [P44]

令和3年度47.4%、令和2年度48.7%、平成30年度47.2%

○主な意見

- ・中学生用の本が少なく、多くの本と出会えない。だから、今人気（ベストセラー）や中学生にためになる本を増やしてほしい。[P74]
- ・子どもたちが図書館は居心地が良く楽しいところ、本はおもしろい、と感じることのできる本のラインナップや閲覧場所の配置を期待しています。[P79]
- ・学生向けに、読書感想の書き方についてのワークショップを開くなど、本に造詣の深い方々からのアドバイスに触れる機会があれば有難いです。[P83]
- ・新しい本もうれしいのですが、子どもの絵本などもう手に入らない古い本があるのがとてもありがたいなと思っています。また本屋さんだと似たような本が並んでいるので、その点でも図書館は貴重でありたいです。[P74]

＜図書館運営協議会からの意見・提案＞

②子どもサービスの拠点をつくる

- ・中央図書館で作成しているブックリストについて、学校とうまく連携できたら、もっと深いものができるのではないかと。
- ・部活に特化した中学生向けのブックリストがあり、それを見て中学校に入ったらこの部活をやりたいというようなことを言う子もいたので、こういったブックリストには効果があるのではないかと。
- ・中央図書館に限らず、ほかの世田谷区内の図書館に足を運んだときに、いろいろブックリストを作っているのを見ていて、とても意欲的に取り組んでいると思う。一方で、ブックリストを作成した後の評価も必要だと思う。
- ・子ども読書リーダーについて、小学生だけでなく、中学生の職場体験等で図書館に来るような子どもたちを、子ども読書リーダーに取り込んで一緒にやっていけると良いのではないかと。

③充実した学校図書館づくりを支援する

- ・主な取組みに記載されている「区立図書館と学校図書館司書等」との定期的な交流会…」とあるが、もし交流会をやっているならば、指標化しても良いのではないかと。
- ・小・中学校の調べ学習支援について、小学校と中学校の調べ学習の違いみたいなものがみれると良いのではないかと。

○その他

- ・中学生についての記載が、この基本方針1にはあまり出てきていないのではないかと。

- ・基本方針1「0歳児からの読書を支える図書館」とあるが、幼児のことを中心に取り組んでいるような印象を受けるので、小中高生に関する言葉が入ると良いのではないかと。

＜自己評価及び意見・提案を踏まえた今後の取組みの方向性＞

①子どもが本に出会う機会をつくる

- ・おはなし会や子ども向け事業を継続して実施し、電子書籍の活用等も含め、読書機会の拡大等について検討していく。
- ・図書館が作成するブックリストを効果的に活用するため、HP等による広報のほか、小・中学校との連携をより一層図っていく。
- ・中高生の読書を推進するため、読書への興味関心を惹くような中高生向け事業・周知や、図書館ボランティア体験などにも取組んでいく。

②子どもサービスの拠点をつくる

- ・今後も、継続して絵本、児童資料、中高生向け資料などの収集・充実に向けていく。
- ・子ども読書リーダーの取組みについて、小学校だけでなく中学校との連携も図りながら、中高生世代を子ども読書リーダーに取り込んでいくなど、子ども読書リーダーの取組みの充実とあわせて中高生の読書活動を支援していく。

③充実した学校図書館づくりを支援する

- ・小・中学校への調べ学習支援の充実に向けて、資料の充実や小・中学校への資料提供の機会を増やすなど、学校図書館と区立図書館との連携を図っていく。
- ・区立図書館と学校図書館司書との交流会については、学校図書館司書の全校委託化やコロナ禍により開催していないため、情報交換などの機会を設けるよう交流会の開催について検討していく。

＜基本方針＞

基本方針2 大人の学びを豊かにする図書館

＜施策の方向性及び主な取組みについて（第2次世田谷区立図書館ビジョン第2期行動計画から一部転記）＞

①多様な学びの機会をつくる

・図書館サービスの根幹をなす図書資料等の充実に継続して取組みます。
・図書館のロビー等を会場とした音楽会や多彩なテーマの講演会等の事業を行い、これまで図書館に来る機会の少なかった区民の図書館利用へのきっかけづくりを図ります。また、図書館の図書資料等を活用した主体的な学びを促すことを目的として、資料の探し方や調べ方、様々なテーマでの講演・講座などの図書館活用講座等の実施を通じて、テーマに関連する資料を手に取り、学びを広げる機会を提供します。

②お互いに学びあう機会をつくる

第1次図書館ビジョンのもとで取組んできた「学習活動発表会」を継続して実施し、図書館を利用した学習成果の発信機会を設けます。参加者の学習成果や発表の様子等をまとめた報告書のホームページでの公開等により、区民の図書館における学習成果を広め、関心を共有する区民のさらなる参画を促すことをめざします。

③地域で学びを活かす人材を育てる

子どもの読書活動に関わるボランティアや録音図書を作製するボランティアの育成のための講座を継続して実施するとともに、講座修了者の活動の場や機会に関する情報提供等の活動支援手法を検討・実施し、各々の活動の広がりを支援していきます。

＜評価指標及び自己評価＞

指標		R2年度実績		R3年度実績		対R2年度比		《参考》 H30年度実績	令和3年度自己評価
多様な学びの機会をつくる									
①	一般図書 貸出数、 蔵書数 (総記、哲 学、歴史、 文学)	蔵書 数	総記	38,734冊(2.7%)	39,046冊(2.7%)	100.8%	37,523冊(2.6%)	・新型コロナウイルス感染症拡大に伴い、予算の削減を受ける中で必要な資料を厳選して選書することができた。一方で、アンケート調査では「図書館に望むサービス」として、蔵書や資料の充実を望む声が多く、より一層図書資料等の充実に取り組む必要がある。 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施したうえで、図書館活用講座などのイベント等を実施し、図書館利用の契機や図書館の活用方法の周知などに取り組むことができた。	
			哲学	55,210冊(3.8%)	56,203冊(3.8%)	101.8%	55,635冊(3.8%)		
			歴史	130,387冊(9.0%)	130,219冊(8.9%)	99.9%	133,191冊(9.2%)		
			文学	523,381冊(36.1%)	524,876冊(36.0%)	100.3%	527,646冊(36.3%)		
			総数(上記以外の分類を含む)	1,451,442冊	1,459,949冊	100.6%	1,453,922冊		
	※児童書 等を除く	貸出 数	総記	57,894冊(1.8%)	62,562冊(1.7%)	108.1%	57,089冊(1.4%)		
			哲学	160,808冊(4.9%)	176,796冊(4.8%)	109.9%	188,720冊(4.5%)		
			歴史	245,422冊(7.4%)	277,571冊(7.5%)	113.1%	424,882冊(10.2%)		
			文学	1,454,658冊(44.0%)	1,624,907冊(44.2%)	111.7%	1,817,014冊(43.7%)		
			総数(上記以外の分類を含む)	3,303,078冊	3,679,124冊	111.4%	4,159,106冊		
	一般向け事業(全館で取り組んだ主な事業)		実施回数	6回	10回	166.7%	8回		
			参加者数	268名	418名	156.0%	480名		
	お互いに学びあう機会をつくる								
②	学びのプレゼン事業の実施		・講演会34名 ・作品展示	・講演会25名 ・POP作品展示	—	・学びのプレゼン(学習活動発表会)発表者2名 ・講演会21名	コロナ禍ではあったが図書館を利用した学習成果の発信する機会として学びのプレゼン事業を実施することができた。今後も学びあえる機会をつくるために事業の実施や支援を行っていく必要がある。		
地域で学びを活かす人材を育てる									
③	ボランティア講座	実施回数	12回	11回	91.7%	6回	新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を実施したうえで、学校おはなし会ボランティア講座等を開催したが、参加者数を増やすだけでなく、その後の活動に繋がっているか検証し、支援していく必要がある。		
		参加者数	47名	35名	74.5%	63名			

＜各館の具体的な取組み事例＞

①多様な学びの機会をつくる

○一般向け事業(全館で取り組んだ主な事業)

・「読書の秋の講演会～落語と読書～(参加者数57名)」落語の講演と講師がおすすめする本の紹介などを行った。(参考資料添付)
・「図書館コンサート(参加者238名)子どもも大人も楽しめるマジックショー、手遊び、絵本ライブなどを行った。(参考資料添付)

②地域で学び活かす人材を育てる

・「音訳ボランティア養成講座(参加者数8名)」雑誌漢字の読み方やグラフ・図表・地図の音声化などについて、講師を呼んで講座を実施した。

＜基本方針に関連したアンケート調査結果抜粋＞ ※「令和3年度世田谷区立図書館についてのアンケート調査結果」から抜粋

○資料の種類や数についての満足度(満足・やや満足合算)[P38]

・本の種類や数: 令和3年度57.6%、令和2年度59.9%、平成30年度47.2%
・雑誌、新聞の種類や数: 令和3年度37.6%、令和2年度42.6%、平成30年度36.9%

○図書館を利用した感想

・今まで知らなかった世界や考え方を知り、関心分野が広がった(そう感じる・やや感じる合算) 令和3年度67.1%、令和2年度68.6%、平成30年度57.4%[P61]
・一般教養や幅広い知識を得ることができた 令和3年度69.4%、令和2年度67.7%、平成30年度57.3%[P62]

○主な意見

・とにかく、人気本の冊数を増やしてほしい。1冊の本に何十人もの待ちがある。新刊の入荷が遅い。雑誌の購入を増やしてほしい。[P74]
・予約の多い本を何冊も購入していただけるのは、借りる方としてありがたいのですが、一時的なベストセラーはその後どうなのかと思うので、上限を決めてその分、いろいろな本が入るのもありがたいと思います。[P75]

＜図書館運営協議会からの意見・提案＞

①多様な学びの機会をつくる

・選書の判断をどう考えているかは利用者にはわからないので、どんな仕組みなのかを明らかにして公開していれば、この図書館運営協議会でも意見を言う機会となると思う。
・世田谷区立図書館としてどういった資料を収集・選書するのかを、区民に分かりやすく公開したほうが良い。
・図書館が行う講演やイベントについて、区報だけでなくもっと全体にアピールするものがあれば、大勢の人に知ってもらい、それまで図書館に興味を持っていなかった方も来てくれるのではないかと。
・利用者登録について、登録者数がどれぐらいいるのかをみることも一つの指標になるのではないかと。

＜自己評価及び意見・提案を踏まえた今後の取組みの方向性＞

①多様な学びの機会をつくる

・来館者アンケートにおいて図書館に望むサービスとして最も要望の多い「蔵書・資料の充実」に向けて、子どもや若者、子育てへの支援など区が進める施策に関する資料や、各館の地域の特色、利用実績等に応じた資料を収集し、新規購入等の受け入れと除籍のバランスを取りながら蔵書構成を進めていく。
・図書館活用講座や情報検索講座、講演会や落語等の多彩な事業の充実を図り、図書館利用の契機や図書館の活用方法の周知を工夫するなど、区民の学びを広げる機会を提供していく。
・一般向け事業の実施にあたっては、図書館に興味を持っていなかった方にも興味を持ってもらうよう、実施回数を増やす工夫や、積極的な情報発信・周知を図るよう検討を進めていく。
・資料収集方針(除籍を含む)について、今後、内容を整理し、図書館ホームページ等での公表に向けて取組んでいく。

②お互いに学びあう機会をつくる

・今後も、学びのプレゼン事業の実施など、図書館を利用した学習成果の発信機会を提供し、区民のさらなる参画を促していく。

③地域で学びを活かす人材を育てる

・学校おはなし会ボランティア講座や、音訳ボランティア講座などを通して、その後のボランティア活動の広がりを支援するとともに、図書館の活動に参画できるようにするなど、ボランティアが活動できる範囲の拡充に向けて取組んでいく。

《基本方針》					
基本方針3 暮らしや仕事に役立つ図書館					
《施策の方向性及び主な取組みについて（第2次世田谷区立図書館ビジョン第2期行動計画から一部転記）》					
①区民の悩みや課題の解決を助ける					
図書館のレファレンスは、日々の暮らしや健康、仕事、さらには地域の課題などに対して有効な図書資料等や情報を提供するもので、図書館の重要な機能です。現在、レファレンスの認知度が低い状況と踏まえ、レファレンスの有用性や情報検索や調査のための方法を積極的に周知するとともに、図書館を有効活用するための講座等を拡充していきます。					
②人が集い、つながりを生む場づくり					
地域の社会資源としての図書館には、多世代の様々な利用者が多く集まります。図書館という場を共有する利用者が、個々に本を借りて読むことにとどまらず、人がつながり交流が生まれる場づくりを工夫します。既存の講演・講習会等の終了後に歓談できる場を設けることや、交流そのものを楽しむ事業を実施するなど、お互いに交流を深めるきっかけとなる事業を実施します。また、地域のまつりやイベントに区立図書館が参加することで、交流を促すことを推進します。					
③地域で活動する団体との関係を築く					
図書館の図書資料等を活かした事業を地域のまつりやイベントの中で実施することにより、区民が日常的に集う場で知識や情報に触れる機会を提供します。また、町会・自治会や商店街などとも連携し、図書館の団体貸出などを活用して、図書館外でも本に触れることのできる機会の確保に地域団体などが取組むことを支援します。					

《評価指標及び自己評価》

指標		R2年度実績	R3年度実績	対R2年度比	《参考》 H30年度実績	令和3年度自己評価		
区民の悩みや課題の解決を助ける								
①	一般図書 (社会科学、自然科学、工学、産業、芸術、語学) ※児童書等を除く	蔵書数	社会科学	205,375冊(14.1%)	207,587冊(14.2%)	101.1%	199,402冊(13.7%)	■一般図書について、令和2年度に比べて蔵書数、貸出数ともに増加しており、少しずつではあるが、図書の充実に取り組むことができている。 ■レファレンス件数の総数が、コロナ禍以前の平成30年度に比べて減少しているため、レファレンスの取組みを充実し、広く区民へ周知していく必要がある。
			自然科学	104,633冊(7.2%)	106,178冊(7.3%)	101.2%	102,450冊(7.0%)	
			工学	124,637冊(8.6%)	123,864冊(8.5%)	99.4%	124,682冊(8.6%)	
			産業	47,680冊(3.3%)	48,077冊(3.3%)	100.8%	47,621冊(3.3%)	
			芸術	127,817冊(8.8%)	129,213冊(8.9%)	101.1%	127,359冊(8.8%)	
			語学	26,949冊(1.9%)	27,480冊(1.9%)	102.0%	27,434冊(1.9%)	
			総数(上記以外の分類を含む)	1,451,442冊	1,459,949冊	100.6%	1,453,922冊	
	※()内の割合は、総数に対しての比率	貸出数	社会科学	377,519冊(11.4%)	420,752冊(11.4%)	111.5%	420,202冊(10.1%)	
			自然科学	214,562冊(6.5%)	252,429冊(6.9%)	117.6%	252,985冊(6.1%)	
			工学	416,298冊(12.6%)	445,680冊(12.1%)	107.1%	534,544冊(12.9%)	
			産業	81,292冊(2.5%)	87,670冊(2.4%)	107.8%	93,659冊(2.3%)	
			芸術	218,747冊(6.6%)	245,021冊(6.7%)	112.0%	270,165冊(6.5%)	
			語学	54,396冊(1.6%)	61,230冊(1.7%)	112.6%	72,555冊(1.7%)	
			総数(上記以外の分類を含む)	3,303,078冊	3,679,124冊	111.4%	4,159,106冊	
レファレンス件数 ※()内の割合は、総数に対しての比率	簡易なもの(当日回答・書架案内・資料検索含む)	64,960件(99.5%)	75,355件(99.3%)	116.0%	77,195件(98.6%)			
	当日回答できず、質問を預かったもの	323件(0.5%)	505件(0.7%)	156.3%	1,060件(1.4%)			
	総数	65,283件	75,860件	116.2%	78,255件			
コピー枚数		246,265枚	276,921枚	112.4%	425,119枚			
②人が集い、つながりを生む場づくり								
②	利用者同士の交流を促す事業の実施	○令和3年度各館の主な実績 ・(複数館で対応)参加型・交流型事業「本の装備体験と思いいれのある本を語り合う会」の実施(参考資料添付) ・(砧図書館)砧地域の各利用団体の活動やおすすめ本の展示、講演会を実施				新型コロナウイルス感染症拡大防止対策を踏まえ、参加者を制限するなどして交流型事業を一部実施することができた。		
③地域で活動する団体との関係を築く								
③	団体貸出センターの状況	登録団体	46団体	68団体	147.8%	45団体	登録団体、資料数、貸出数が増加しており、団体活動の支援に取組むことができている。	
		資料数	83,524冊	85,286冊	102.1%	80,960冊		
		貸出数	38,876冊	44,034冊	113.3%	43,493冊		
	○令和3年度各館の主な実績 ・(代田図書館)代田区民センター祭りにリユース児童図書の頒布等、児童館の行事に参加 ・(下馬図書館)地元商店街が主催し、地域の大学生が運営に参加する三宿おおぞら図書館(世田谷公園)に400冊程度本を提供 ・(経堂図書館)商店街合同消防訓練の広報に協力、参加。また、商店街「節分祭」広報に協力							
	地域の行事等への積極的な参加促進							

《各館の具体的な取組み事例》	
①区民の悩みや課題の解決を助ける	
○レファレンス	
・(中央図書館)職員を対象に、初歩的なものから中級レベルまでのレファレンス技能の習得に向けてレファレンス研修(初級・中級)実施した。	
・(中央図書館)世田谷保健所と連携し、中央図書館で「がん相談」と関連する本の展示を行った。	
・(全館で取組んだ事業)「図書館活用講座『認知症とともに生きる希望のまち世田谷』(参加者数11名)」区の担当部署と協力し、区の新しい条例「世田谷区認知症とともに生きる希望条例」と認知症高齢者支援の区民講座を実施した。	
・(全館で取組んだ事業)「情報検索講座『電子書籍を体験しよう』(参加者数5名)」電子書籍サービスの概要の説明や、基本的な操作の体験を実施した。	

《基本方針に関連したアンケート調査結果抜粋》 ※「令和3年度世田谷区立図書館についてのアンケート調査結果」から抜粋

○レファレンスの認知状況 [P44]	
令和3年度30.5%、令和2年度31.9%、平成30年度35.4%	
○図書館を利用した感想	
・探していた情報や知識を得ることができた(そう感じる・やや感じる合算) 令和3年度74.8%、令和2年度77%、平成30年度67.8%[P61]	
・生活が豊かになった 令和3年度69.1%、令和2年度68.1%、平成30年度55.6%[P62]	
○図書館に望むサービス [P47]	
・レファレンスサービス(資料の紹介・相談)を充実する 令和3年度4.5%、令和2年度3.7%、平成30年度2.6%	
・利用者同士の交流の場を充実する 令和3年度1.9%、令和2年度1.5%、平成30年度2.5%	
○主な意見	
・いつも利用していますが基本満足しています。調べ物するのにリニューアルした杉並区に比べると書籍が少ないように感じます。[P74]	
・専門知識のある職員が配置されず、図書館が貸出中心の場になっている。レファレンスこそ重要な役割ではないかと思う。新米の親は絵本1冊選ぶのも悩んでいる。「図書館に行っても並んでいるだけで何を選んでもいいかわからない」との声を聴く。[P81]	
・今回レファレンスをお願いさせて頂きました。自力では見つけれられないような資料まで発掘していただき大変ありがたかったです。今後とも頑張ってください。ありがとうございました。[P81]	
・読書会グループなどが自然発生出来るような、平常からの感想発表コーナーの設置など、孤立した読書体験を共有化できる機会を増やす方法を考えてほしい。[P83]	

《図書館運営協議会からの意見・提案》

①区民の悩みや課題の解決を助ける	
・今後、レファレンスの認知度に関しても指標化していくことは必要ではないか。	
・選書の判断をどう考えているかは利用者にはわからないので、どんな仕組みなのかを明らかにして公開していれば、何か意見を言う機会になると思う。(再掲)	
・世田谷区立図書館としてこういった資料を収集・選書するのかを、区民に分かりやすく公開したほうが良い。(再掲)	
・利用者登録について、登録者数がどれくらいいるのかをみることも一つの指標になるのではないか。(再掲)	
③地域で活動する団体との関係を築く	
・団体貸出について、図書館側から本の提案や話を伺えるような取組みがあるとよいと思う。	

《自己評価及び意見・提案を踏まえた今後の取組みの方向性》

①区民の悩みや課題の解決を助ける	
・来館者アンケートにおいて図書館に望むサービスとして最も要望の多い「蔵書・資料の充実」に向けて、子どもや若者、子育てへの支援など区が進める施策に関する資料や、各館の地域の特色、利用実績等に応じた資料を収集し、新規購入等の受け入れと除籍のバランスを取りながら蔵書構成を進めていく。(再掲)	
・今後も、レファレンス資料や商用データベースなどのレファレンスサービスの更なる充実を図るとともに、レファレンスの取組みを広く区民に周知するため、パスファインダーの発行やレファレンス事例の公開など、積極的な情報発信にも取組んでいく。	
②人が集い、つながりを生む場づくり	
・図書館の利用者がつながり、交流が生まれるきっかけとなる事業を実施していく。また、コロナ禍の状況もあるが、既存の講演・講習会等の終了後に歓談できる場を設けるなどの場づくりを行っていく。	
③地域で活動する団体との関係を築く	
・地域コミュニティの活性化や文化振興に資する団体活動の支援に向けて、地域で活動するNPO法人やボランティア団体の活動を支援する資料を貸し出すなど、活動団体との連携を図っていく。	

＜基本方針＞

基本方針4 世田谷の魅力を集集・発信する図書館

＜施策の方向性及び主な取組みについて（第2次世田谷区立図書館ビジョン第2期行動計画から一部転記）＞

①世田谷の地域活動の情報を集める

世田谷区ではまちづくりをはじめ、様々な区民活動が取組まれています。また、郷土史や風俗について研究する団体も活動しています。それらの区民活動の成果や活動記録等の資料が発行されている場合には、団体や個人に働きかけ、区立図書館として収集することを検討します。

②世田谷の魅力を広く伝える

・各図書館では区民に有用な様々な取組みや事業を行っていますが、その認知度は必ずしも高くはありません。全館的な広報の充実方策の検討を進めるとともに、広報誌、インターネットや電子的な媒体を活用して積極的な情報発信・周知を図ります。特に地域図書館では、図書館の情報に加え、地域情報を積極的に発信し、地域における図書館の存在や利用価値について改めて認識されるよう努めます。
・世田谷区は、個性のある商業地や芸術文化、まちづくり、スポーツなどの地域活動が特徴として挙げられ、世田谷の魅力ともなっています。また東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向け、国内外への世田谷の魅力の発信も求められています。すでに区内外で認知されている魅力とともに、各図書館で取組んできた地域特性を活かした事業に見出される地域の個性を含め、情報を収集し、発信することを通じて、図書館からの「世田谷らしさ」を区内外に周知していきます。

③新しいメディアでの資料収集・公開を進める

地域文化やまちづくりなどの区民活動の記録をまとめた資料は、発行部数が少なく、貴重なものが少なくありません。また、区が発行する行政資料についても収集・提供・保存していく必要があります。それらの収集した資料を電子化することにより、適切に保存しつつ、ホームページ等で広く公開していく方法を検討します。特に区が発行する行政資料については、区立図書館の責務として、電子的資料も含め、体系的に収集・提供・保存していく方策について検討していきます。

＜評価指標及び自己評価＞

指標		R2年度実績	R3年度実績	対R2年度比	《参考》 H30年度実績	令和3年度自己評価	
世田谷の地域活動の情報を集める							
①	地域活動情報の収集	○令和3年度各館の主な実績 ・(粕谷図書館)「粕谷・上祖師谷地域の情報」コーナーを設け、区民団体が発行する広報誌を展示、配布した。 ・(代田図書館・尾山台図書館)まちの情報コーナー(パンフレット架)を設置した。 ・(砧図書館)世田谷区および東京都の発行した行政資料を中心に、利用者目録での配置換えを行い、利用しやすくした。				・各館では地域に関する情報を収集し、専用コーナーを設けるなど身近な地域の情報発信を行うことができた。地域資料の更なる充実に向けて、各地域のまちづくりセンターなどと、より一層連携を進めていく必要がある。	
世田谷の魅力を広く伝える							
②	図書館ホームページ	ユーザー数 (区HPにアクセスしたユーザー数)	3,533,848名	3,869,067名	109.5%	3,252,484名	・図書館ホームページのユーザー数は年々増加しており、各館が実施している事業や取組みを積極的にホームページ上で情報発信することができた。
	地域資料(世田谷区一般図書館地域資料)	蔵書数	31,006冊(2.1%)	32,242冊(2.2%)	103.1%	29,678冊	・地域資料の蔵書数、貸出数ともに令和2年度と比べて増加しており、地域資料の充実に向けて取り組むことができている。
	※()内の割合は、総数に対しての比率	総数(上記以外の分類を含む)	1,451,442冊	1,459,949冊	100.6%	1,453,922冊	
		貸出数	7,390冊(0.2%)	8,135冊(0.2%)	110.1%	8,451冊	
		総数(上記以外の分類を含む)	3,303,078冊	3,679,124冊	111.4%	4,159,106冊	
新しいメディアでの資料収集・公開を進める							
③	電子書籍(令和2年11月より開始)	コンテンツ数	8,343タイトル	10,676タイトル	128.0%		令和2年度から電子書籍サービスを開始し、登録者数や貸出数などは増えているが、地域資料の電子化などにも取組んでいく必要がある。
		登録者数	8,297名	19,999名	241.0%		
		貸出数	6,917点	16,718点	241.7%		
		予約数	3,692件	5,875件	159.1%		

＜各館の具体的な取組み事例＞

②世田谷の魅力を広く伝える

・（全館）各館で地域特性展示コーナーを設置し、地域特性を活かして世田谷の魅力を発信している。（参考資料添付）
【参考 地域特性コーナーの蔵書数 抜粋】
中央図書館『サザエさんコーナー』R3 468冊 R2 463冊、深沢図書館『ぐりとぐらコーナー』R3 163冊 R2 123冊、
『ふかふかコーナー』R3 163冊 R2 160冊、砧図書館『ウルトラマンコーナー』R3 195冊 R2 188冊、粕谷図書館『徳富蘆花コーナー』R3 307冊 R2 289冊、『花と虫のコーナー』R3 312冊 R2 296冊
・（経堂図書館）商店街との連携展示や大宅壮一文庫との連携展示、経堂ゆかりの人物資料展示を行った。
・（梅丘図書館）テーマ展示（一般・子ども）等の掲示および子ども読書リーダーによるブックリスト「読書の木」を周知した。

＜基本方針に関連したアンケート調査結果抜粋＞ ※「令和3年度世田谷区立図書館についてのアンケート調査結果」から抜粋

○実施サービスの認知状況(地域の魅力収集・発信について)[P45]

令和3年度11.4%、令和2年度14.1%、平成30年度14.5%

○インターネットで資料の検索・予約に関する認知度[P44]

令和3年度76.1%、令和2年度73.8%、平成30年度60.1%

○図書館に望むサービス(電子書籍の充実)[P46]

令和3年度13.4%、令和2年度18.1%、平成30年度8.5%

○主な意見

・図書館によって、書籍の数・種類がことなる印象があります。図書館ごとの特徴をインターネット等で示してもらえると良いと思います。[P85]
・趣味、芸術の分野において、図書館ごとに特徴を持たせて、その情報を適時周知してもらいたい。[P85]
・インターネットを利用した図書館の資料検索機能を充実させていただきたい。たとえば、新刊の情報を月一ペースで希望者に情報配信し、アクセスできるようにするとか。[P78]
・電子書籍が多くなるのようですが、紙の文化も大事なので今まで通りの本は、絶やさないでほしい。[P75]
・電子書籍の蔵書数がもう少し増える事を期待します。読みたい電子書籍は予約が入っている事が多く、まだ、一度も利用した事はありません。しかしながら、紙の蔵書数が充実しているので、事足りており満足しています。[P75]

＜図書館運営協議会からの意見・提案＞

②世田谷の魅力を広く伝える

・世田谷の魅力を発信するならば、図書館の職員がほかのイベント会場に行き、その発信と一緒に支援するという形を取らないとこの施策は実現できないのではないかと。
・世田谷の魅力を広く伝えるのは、発信の回数を増やすか、媒体を増やすかだと思うが、例えばLINEなど新しいツールの活用を検討しても良いのではないかと。
・郷土資料館や文学館など世田谷の文化資源を持っているところと連携し、横断して検索できるコンテンツサービスの充実を図ることで、大人の学びを豊かにすることにもつながるのではないかと。

＜自己評価及び意見・提案を踏まえた今後の取組みの方向性＞

①世田谷の地域活動の情報を集める

・地域活動の情報を広く収集、発信するため、各地域のまちづくりセンターとの連携や、活動体験記等の展示コーナーの設置、地域のボランティア団体の活動を紹介するなどの取組みを行っていく。

②世田谷の魅力を広く伝える

・中央図書館や地域図書館が実施している事業や取組みについて、広報紙やホームページでの積極的な情報発信のほか、区全体のDXの動きも踏まえ、広報活動の充実を図っていく。
・地域資料の蔵書数や貸出数を増やし、各図書館での地域資料の充実に向けて取組んでいく。

③新しいメディアでの資料収集・公開を進める

・電子書籍のサービスにあたっては、今後も魅力あるコンテンツの充実に向けて取組んでいくとともに、地域資料の電子化を推進し、郷土資料館や文学館などが持っている地域の文化資源との連携を進めていく。

＜基本方針＞

基本方針5 図書館ネットワークの構築

＜施策の方向性及び主な取組みについて（第2次世田谷区立図書館ビジョン第2期行動計画から一部転記）＞

①図書館ネットワークを整備する

・平成27年に二子玉川及び三軒茶屋に、資料の予約や貸出・返却を中心としたサービスを行う図書館カウンターを開設しました。今後は、これらの利用状況等を検証しながら、多くの利用者が想定される乗換駅周辺の公共的な施設等、利便性の高い施設への設置を検討し、新規設置を目指して取り組みます。
・必要な改築・改修を進めるとともに、その際、交流スペース・閲覧席の確保や居心地のよさの向上、館内案内サインの整備に努めます。

②中央図書館の機能を拡充する

現施設からの教育センター機能の移転（平成33年度予定）を踏まえ、施設全体を活用して中央図書館の機能を拡充するため「中央図書館機能拡充基本構想報告書」を平成29年にとりまとめました。今後は基本構想報告書をもとにとりまとめた機能拡充の方向性を踏まえ、具体的な事業や施設活用等について検討します。

③世田谷の教育・文化機関と連携する

区内の教育機関や文化施設等との連携を深め、それぞれの活動や事業に関する情報を提供・発信しあうとともに、連携した事業のあり方についても検討します。区立図書館において関係機関が保有する資料の情報の収集・公開に努めます。

＜評価指標及び自己評価＞

指標		R2年度実績	R3年度実績	対R2年度比	《参考》 H30年度実績	令和3年度自己評価		
図書館ネットワークを整備する								
①	図書館間 相互協力	借入数	国立国会図書館	124冊	98冊	79.0%	174冊	・図書館間相互協力について、アンケートでは「区外の資料取寄せ」の認知状況および主な意見を踏まえ、相互協力の認知度の低さが課題である。今後、更なる周知を行っていくことが必要である。 ・図書館カウンターに登録者数・貸出数・予約数が、R2に比べて増加しており、令和4年3月には下北沢カウンターが開設されるなど、図書館ネットワークの整備を進めることができた。
			都立図書館	930冊	1,028冊	110.5%	1,053冊	
		貸出数	23区	10,816冊	12,498冊	115.6%	12,728冊	
			他市町村	587冊	787冊	134.1%	731冊	
	貸出数	23区	6,143冊	6,745冊	110.0%	7,564冊		
		他市町村	542冊	605冊	111.6%	674冊		
図書館 カウンター	二子玉川 カウンター	新規登録者数	638名	737名	115.5%	974名		
		現登録者数	4,712名	4,799名	101.8%	5,757名		
		貸出数	163,157名	189,788名	116.3%	193,522名		
		予約数	148,421件	170,742件	115.0%	163,560件		
	三軒茶屋 カウンター	新規登録者数	639名	645名	100.9%	799名		
		現登録者数	3,704名	3,798名	102.5%	3,505名		
		貸出数	184,423冊	209,959冊	113.8%	201,913冊		
		予約数	159,063件	177,385件	111.5%	170,899件		
中央図書館の機能を拡充する								
②	「中央図書館機能拡充基本構想報告書」をもとにとりまとめた機能拡充の方向性を踏まえた検討・拡充		教育センター機能移転を見据え、大規模改修工事を伴う中央図書館の機能拡充の検討を進めてきたが、区役所本庁舎整備に伴う仮執務室の確保や、不登校特例校の設置などのため本格的な機能拡充については、令和9年度以降に延期となった。					
世田谷の教育・文化機関と連携する								
③	世田谷の教育・文化機関と連携	○令和3年度各館の主な実績 ・（粕谷図書館）「大学公開講座情報」のチラシ・広報誌等を配架する専用ラックを設置し、利用者へ生涯学習講座情報を提供した。 ・（経堂図書館）東京農業大学アメリカザリガニ研究紹介展示や、大宅壮一文庫、商店街と連携した展示を実施した。 ・（中央図書館）駒澤大学経済学部松本ゼミ生によるおはなし会を実施した。（月1回開催）（参考資料添付）				コロナ禍の影響によるイベント中止等の経験を踏まえ、感染防止策を実施したうえで、おはなし会や展示等、教育・文化機関と連携した取り組みを実施することができた。今後も更なる拡充に向けて、取り組みを行っていく。		

＜各館の具体的な取組み事例＞

①図書館ネットワークを整備する

・下北沢カウンターを令和4年3月30日に開設した。
・梅丘図書館の改築工事については、コロナ禍に伴う全庁的な緊急見直しにより工事が先送りとなっていたが、設計見直し等に向けた検討を行った。（令和5年度着工、令和7年度竣工予定）（参考資料添付）

＜基本方針に関連したアンケート調査結果抜粋＞ ※「令和3年度世田谷区立図書館についてのアンケート調査結果」から抜粋

○図書館カウンターの認知状況 [P44]

令和3年度52.0%、令和2年度56.5%、平成30年度44.5%

○区外の資料取り寄せの認知状況 [P45]

令和3年度25.6%、令和2年度30.1%、平成30年度25.3%

○主な意見

・二子玉川カウンターがあることにより、図書館を利用するようになり、読みたいと思っている本をほぼ借りられることにとっても満足しています。ありがとうございます。本を読む頻度が格段に高くなりました。[P84]
・図書館カウンターを頻繁に利用させていただいており、とても便利で有難く思っております。今後もし非続けていただきたいと願っております。[P89]
・他の区の本を取り寄せることができるのは知らなかったです。そういったサービスがあるなら、もうちょっと分かりやすく案内して頂きたいです。[P85]

＜図書館運営協議会からの意見・提案＞

①図書館ネットワークを整備する

・図書館間相互協力について、区外からの資料取寄せに関する認知度が低いのは、図書館職員が案内しているかといった、職員の対応による場合もあり、基本方針6の施策の方向性にある「職員に必要なスキルと専門知識の向上を図る」と関係してくるのではないかと。

＜自己評価及び意見・提案を踏まえた今後の取組みの方向性＞

①図書館ネットワークを整備する

・図書館間相互協力に関するサービスについて、他の公立図書館や大学図書館等と連携し、資料の提供を行っていくとともに、連携先や対象コンテンツの拡充のほか、図書館職員が利用者へ幅広い利用方法の案内ができるよう専門知識の向上にも取り組んでいく。
・今後も、図書館カウンターの利用状況等の検証や、梅丘図書館の改築を推進するなど、図書館機能の充実を図り、図書館ネットワークの整備に向けて取り組んでいく。

②中央図書館の機能を拡充する

・大規模改修工事における機能拡充については区役所本庁舎整備などにより延期となっているが、中央図書館のマネジメント機能の強化などソフト面における機能の拡充に取り組んでいく。

③世田谷の教育・文化機関と連携する

・区内の資料館等の文化施設や大学等の教育機関との連携を深め、一部の館だけでなく、より多くの館で展示や事業を実施できるように検討していく。

基本方針6 専門性と効率性を両立した運営体制の構築						
＜施策の方向性及び主な取組みについて（第2次世田谷区立図書館ビジョン第2期行動計画から一部転記）＞						
①民間活力を計画的に導入する						
多様化する区民ニーズを的確に捉え、図書館サービスをより効率的に充実するため、地域図書館等の民間活力の活用による運営体制づくりを進めていきます。民間活用の導入にあたっては、各施設の立地等の周辺環境や改修・改築等のスケジュール、区民ニーズ等を勘案しながら、本計画期間内に5施設の地域図書館等の新規活用・更新を進めます。活用形態等については、図書館の公共性・専門性と効率性が両立できるよう多角的に検討・検証していく必要があります。現在導入している民間事業者への業務委託や平成29年度から始まった指定管理者による管理などの活用形態の評価・検証、その他の活用形態等を含め、施設ごとに検討を進めていきます。						
②職員に必要なスキルと専門知識の向上を図る						
職員個々のスキルや専門性の向上はもとより、中央図書館においては全体統括のためのマネジメント能力を高める必要があります。また地域図書館等への民間活力の活用の推進に伴い、図書館の公共性・専門性を担保するため、区職員の専門性の維持・向上を図るための仕組みを構築し実施します。						
③事業・運営の指針・目標を示す						
・図書館の公共性を捉え、区民のニーズに応えるサービスや事業、運営を進め、日々向上を図るためには、明確な評価指標を定め、PDCAサイクルを確立させることが必要です。図書館を適切に評価することのできる指標を定め、定期的な調査を通してその指標に対する達成度を図り、その結果に応じてさらなる指標設定を行うことで、よりよい図書館に向けた対策を取るよう努めます。 ・利用者アンケートなどを通して利用者の動向やニーズを把握するとともに、日々寄せられた要望を精査することを通して、区民の視点を取り込んだ評価を実施します。						
＜評価指標及び自己評価＞						
指標		R2年度実績	R3年度実績	対R2年度比	《参考》 H30年度実績	令和3年度自己評価
①	民間活力を計画的に導入する					
	経堂図書館（更新）、下馬図書館、烏山図書館の指定管理者制度の導入 ※経堂図書館は平成29年4月から、下馬図書館、烏山図書館は令和4年4月から指定管理者による運営開始	令和2年度にとりまとめられた「世田谷区立図書館運営体制あり方検討委員会」報告書を踏まえ、政策決定し、経堂図書館の更新に加え、下馬図書館、烏山図書館の指定管理者制度導入に向けた手続きを進めた。				
②	職員に必要なスキルと専門知識の向上を図る					
	職員向け研修（外部研修を除く）	実施回数	18回	14回	77.8%	—
		参加者数	175名	110名	62.9%	—
	司書（司書補含む）資格	職員 有資格者数（指定管理館を除く）	53名 (30.5%) ※認定司書1名含む	59名 (34.5%) ※認定司書1名含む	111.3%	—
		職員総数	174名	171名	98.3%	—
	※嘱託員は会計年度任用職員を指す	嘱託員 有資格者数（指定管理館を除く）	80名 (33.5%)	84名 (35%)	105%	—
③	事業・運営の指針・目標を示す					
	アンケート調査	配布数（紙）	4,921枚	4,919枚	99.9%	10,746枚
		回収数（紙）	2,303枚	2,529枚	109.8%	7,135枚
		回収率（紙）	54.2%	54.6%	100.7%	66.1%
		Web回答数	365件	2,061件	564.7%	—

＜各館の具体的な取組み事例＞

- ①民間活力を計画的に導入する
○令和3年度経堂図書館の主な取組み
・東京農業大学との連携事業
展示紹介として、「アメリカザリガニでできること」をテーマに、東京農業大学制作のザリガニ絵本や研究内容の紹介、調べ学習ができるレポート用紙やブックリストを配布した。
・大宅壮一文庫との連携事業
区内に所在する雑誌の図書館「大宅壮一文庫」と連携し、経堂地域の名跡を雑誌記事から紹介する「経堂ヒストリー」コーナーなど、世田谷区の知られざる魅力を紹介した。
・経堂農大通り商店街連携事業
経堂農大通り商店街の「店主のおすすめ本」展示を実施した。また、世田谷デジタルコレクションにある商店街の昔の写真や周辺地域の歴史を紹介し、利用者に身近な世田谷の魅力を発信した。
- ②職員に必要なスキルと専門知識の向上を図る
○職員向け研修
・（全館）レファレンス（初級・中級）研修、子どもサービス担当者研修、窓口応対力向上研修、製本補修実習等を実施した。
・外部研修への参加（令和3年度）：文科省主催 図書館司書専門講座（3名参加）、文科省・国立大学法人筑波大学主催 新任図書館長研修（4名参加）文化庁主催 著作権実務研修（1名参加）など

＜基本方針に関連したアンケート調査結果抜粋＞ ※「令和3年度世田谷区立図書館についてのアンケート調査結果」から抜粋

- 指定管理者制度が導入された場合、どのようなことを期待するか（上位3つ） [P50]
・民間事業者のノウハウを活用した図書館サービスの向上（42.7%）
・開館日・開館時間が拡大する（42.3%）
・民間事業者の創意工夫による館独自の新たなサービス（36.3%）
- 指定管理者制度が導入された場合、どのようなことに不安を感じるか（上位3つ） [P51]
・利益重視になり必要な図書館サービスが低下する（44.7%）
・図書館（事業者）によりサービス内容・種類に差が生じる（38.5%）
・図書館の公共性や個人情報保護が心配（36.3%）
- 図書館職員の接遇についての満足度（満足・やや満足合算） [P42]
令和3年度：63.2%、令和2年度：67.9%、平成30年度：64.4%
- 主な意見
・図書館の職員の対応にとても満足しています。その場所が好きになるかどうかは人で決まるように思います。借りる人の立場になって、知識を持った人が対応にあたって下さる。また訪れたいと思う図書館作りを願います。[P81]
・図書館員のレファレンス能力が低いと感じます。他館では司書をやっていますが、途中で交替して回答したくなるが多々あります。職員の研修などはあるのですか？ぜひ研鑽を積んでがんばっていただきたいです。[P81]
・司書を専門職として育成することが、長い目で見ると図書館の質の向上につながると思う。[P82]

＜図書館運営協議会からの意見・提案＞

- ①民間活力を計画的に導入する
・指定管理に関して、導入した効果は出ていると思うが、この協議会で評価・検証するならば、別で指定管理の評価委員会を行っていると思うので、そこで使っている資料などをこの協議会に活用することもできるのではないかと。
- ②職員に必要なスキルと専門知識の向上を図る
・例えば返却期限が過ぎた際、速やかに督促業務を行い、次の利用者に早く本を貸し出すなど、日々の業務の品質に関する指標が必要ではないかと。
・職員の必要なスキルに関して、研修を受けた職員が図書館職員としてどれだけ長く勤務しているかで、レファレンスの対応なども変わってくると思うので、これまで培ったスキルを生かせるような職員の配置も必要ではないかと。

＜自己評価及び意見・提案を踏まえた今後の取組みの方向性＞

- ①民間活力を計画的に導入する
・指定管理者制度を導入している図書館の評価・検証の実施や、図書館運営協議会の意見・提案などを踏まえ、世田谷の図書館にふさわしい運営体制を検討する。
- ②職員に必要なスキルと専門知識の向上を図る
・今後も、利用者サービスの向上に向けて、職員の専門知識等の習得のための外部研修や実務研修など、職員研修の充実を図っていくとともに、司書資格取得のための支援や、館長のマネジメント力を高める取組みなどを進めていく。
- ③事業・運営の指針・目標を示す
・アンケート調査について、今後も継続して実施していくとともに、区民のニーズや利用者の動向を把握し、必要に応じて質問項目や選択肢の内容を見直すなど、アンケート調査結果を十分に参考にしながら、より良い図書館サービスの実現をめざしていく。